

# 令和4年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業

## 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 佐賀市(都道府県:佐賀県)

### 1.当該地域の情報(令和4年12月現在)

<p>地域の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年頃から本市、特に久保泉・春日地区に技能実習生の転入が増加</li> <li>①タガログ・ベトナム語のごみ看板設置(H29)、②技能実習生が久保泉校区の祭りへ参加(H30)</li> <li>③技能実習生を講師としたベトナム料理交流会開催(R1)、と次第に地域の住民と在住外国人とのつながりが出てきた矢先、新型コロナウイルス感染症拡大で、住民同士の交流が全て停止し、特に、地域内で在住外国人が地域の日本人と交流する機会が無い状態である。</li> <li>・「地域住民全体でのまちづくり」に向けた在住外国人の認識と支援の必要性</li> </ul> <p>佐賀市は「佐賀市総合計画」「佐賀市まちづくり自治基本条例」に基づき、安心して暮らし続けることができる地域社会の実現を目指しており、そのまちづくりに日本人だけでなく、在住外国人も含めて地域の力にする仕組みづくりへの取組が必要である。</p> <p>特に近年台風や集中豪雨による土砂崩れ、河川の氾濫、内水の被害が発生し、平常時からの備えを呼びかけており、在住外国人も日本人住民と同様、自分の安全を確保しつつ、他の住民の支援に関われる「自助・共助」の姿勢の定着が急務である。</p>
<p>在住外国人数 外国人比率</p>	<p>在住外国人数 佐賀市：2,062人(久保泉校区 68人、春日校区 147人) 外国人比率 佐賀市：0.9%(久保泉校区 1.9%、春日校区 1.7%)</p>
<p>在住外国人の 状況</p>	<p>【主な国籍】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀市 2,062：ベトナム 394、中国 333、フィリピン 258、ネパール 247、韓国 205、インドネシア 118、ミャンマー109、バングラディシュ 53、アメリカ合衆国 33、朝鮮 31、カンボジア 31</li> <li>・久保泉校区 68：ベトナム 28、フィリピン 18、ミャンマー6、インドネシア 5、韓国 4、朝鮮 3、ネパール 3、オーストラリア 1</li> <li>・春日校区 147：ベトナム 87、フィリピン 35、中国 8、韓国 6、ミャンマー3、インドネシア 2、ブラジル 1、朝鮮 1、マレーシア 1、ニュージーランド 1)</li> </ul> <p>【在留資格】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀市 2,062：留学 439、永住 379、技能実習 367、特定技能 153、家族滞在 145、特別永住 139、技・人・国 133、日配 79、特定活動 50、定住 46</li> <li>・久保泉校区 68：技能実習 1号口 23、技能実習 2号口 19、技能実習 3号口 9、特別永住 6、特定技能 1号 5、技・人・国 3、日配 2、永住 1</li> <li>・春日校区 147：特定技能 1号 44、技能実習 1号口 37、技能実習 3号口 18、技能実習 2号口 11、永住 11、特別永住 5、技・人・国 5、特定活動 4、介護 4、家族滞在 3</li> </ul> <p>【滞在年数・在留期間などの状況】</p> <p>技能実習、留学、技・人・国等の活動に基づく在留資格保有者が半数を占め、彼らが3年前後で転入・出している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年から在住外国人数が減少したが、現在は感染症拡大前までに回復した。</p> <p>春日地区は2年前には技能実習生が8割を占めていたが、特定技能への移行が進んでいる。</p>
<p>在住外国人の 日本語教育の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「初級日本語集中講座」(佐賀市国際交流協会・佐賀県日本語学習支援カスタネット共催 平成21年～)有資格者の講師陣による日本語ゼロレベルから学習できる集中講座(36時間)を年3回開催(受講テキスト代500円)。講座を修了した学習者が地域日本語教室で継続して学習できる連携体制をとっている。</li> <li>・ボランティア支援者による地域日本語教室</li> <li>市中心地に「佐賀県国際交流プラザ」(管理者(公財)佐賀県国際交流協会)があり、そこを拠点に6つの団体が月2-4回活動中。コロナ下ではオンラインも取り入れ、積極的に教室を運営している。</li> <li>・日本語指導が必要な児童・生徒への支援</li> <li>佐賀県国際交流協会(子ども日本語学習サポーター事業)と佐賀市教育委員会による日本語指導担当教員の配置校での受け入れ、未配置校への巡回を行い、個別の指導計画に基づき加配措置をする。また、佐賀県外国にルーツを持つ生徒交流を支援する会(さが わーるどりんぐ)が年3回の交流会や毎週1回の放課後学習会を実施、相談を受付。</li> <li>・留学生向け日本語学習</li> <li>佐賀大学、佐賀女子短期大学、西九州大学・西九州大学短期大学部の留学生が学内で日本語を学習。</li> <li>・日本語専門学校について</li> <li>令和4年3月末でヒューマンアカデミー日本語学校佐賀校の事業を株式会社ジャパンランゲージが継承、同年6月「佐賀ランゲージセンター」として開校</li> </ul>

## 2.事業の内容

本プログラム取組年数	1年目			
事業の目的	本市は「佐賀市総合計画」「佐賀市まちづくり自治基本条例」に基づき、安心して暮らし続けることができる地域社会の実現を目指しており、そこには地域住民全体での多文化共生のまちづくりが求められる。そのためには、①在住外国人側が日本語を学び、学校・職場そして住んでいる地域内でコミュニケーションを図り充実した生活をする事、②日本人側は在住する地域で日本語教育等に関わり、様々な交流を重ねながら理解を深め、顔が見える関係からお互いが多様な価値観を受け入れ、支え認め合うことが必要である。2つの側面から本市が目指す「多文化共生からのまちづくり」を実現する。			
事業の概要	本市の郊外に位置する久保泉校区・春日校区の在住外国人を対象とした日本語教室を開設する。(学習者や地域の意向を把握し対面・オンラインなど開催形式により実施回数を決定する。)教室の内容は、生活に必要な項目や地域の理解につながるように計画する。さらに台風や集中豪雨による土砂崩れ、河川の氾濫、内水の被害等に対しての「自助・共助」の姿勢がとれるように導いていく。地域住民との交流活動を多く取り入れることで、顔見知りの関係づくりや住みやすさの向上を図り、地域の多文化共生を推進する。			
事業の対象期間	令和4年4月～令和5年3月			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	貞松 明子	①佐賀県日本語学習支援カスネット ②佐賀女子短期大学	①サポーターズ担当 ②非常勤講師	日本語教育の指導者等の人材育成、研修企画・実施 日本語教室のカリキュラム、教材作成、日本語教室における学習環境整備、地域住民への意識啓発
	馬場 三佳	①佐賀市国際交流協会 ②佐賀県日本語学習支援カスネット ③西九州大学短期大学部	①職員 ②事務局担当 ③非常勤講師	検討体制メンバー・実施協力団体(兼務)研修企画・実施、日本語教室における学習環境整備、地域住民への意識啓発
	吉原千恵美	地域日本語教室にほんごすいもく		日本語教育の指導者等の人材の養成・研修の企画・実施 日本語教室のカリキュラム・教材の作成、日本語教室における学習環境の整備、既存教室・在住外国人学習者との連携
	宮副千代子	佐賀市総務部国際課 多文化共生係	主事	事業全体の連絡・調整等事務全般
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	松永 典子	九州大学大学院比較社会文化研究院	教授	新規(1年目)
	山田 智久	西南学院大学外国語学部	教授	新規(1年目)
	御館久里恵	鳥取大学教育支援・国際交流推進機構	准教授	新規(1年目)

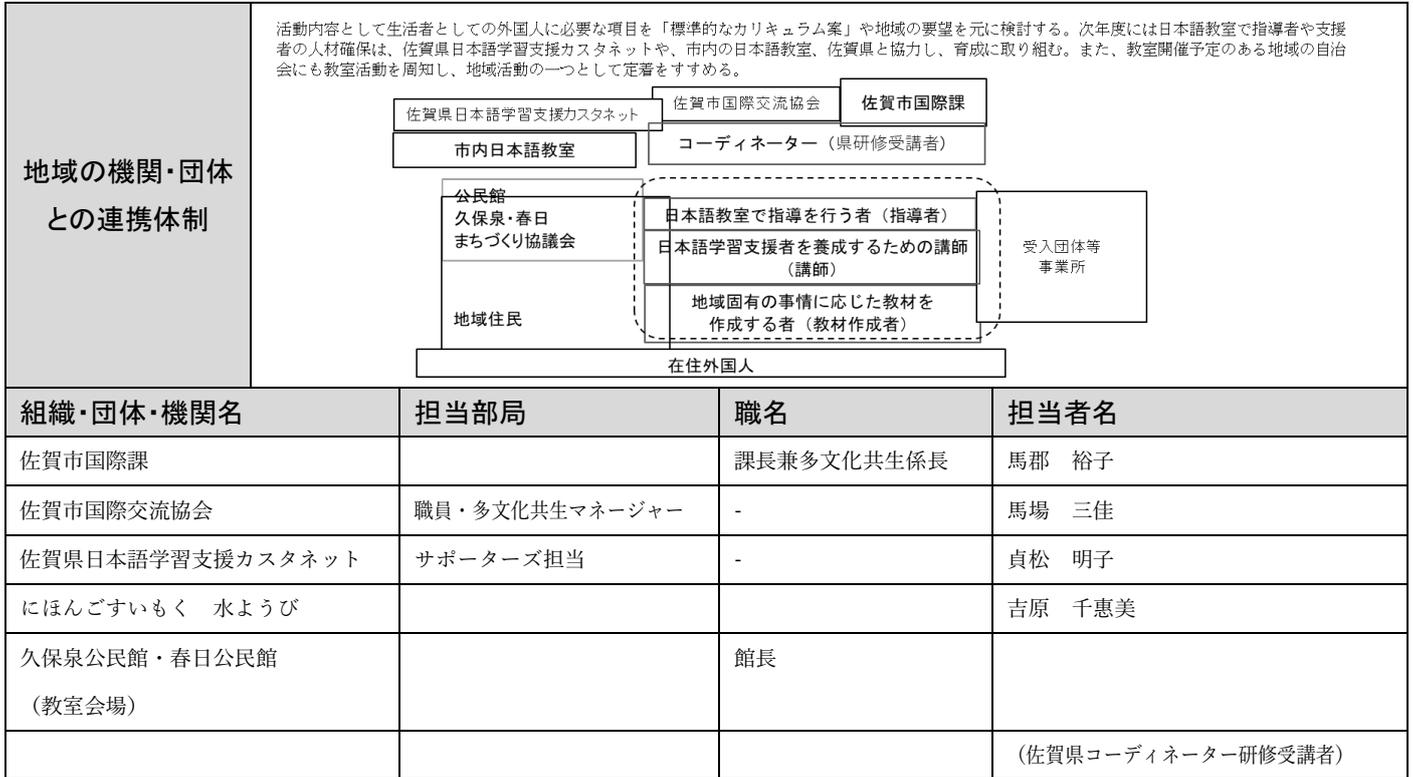
## 3.日本語教室の設置に向けた検討体制

### (1)地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制	<p>佐賀市国際課、コーディネーターを中心として、検討体制を整え、外部有識者である地域日本語教育アドバイザーを迎え、教室開催にむけた検討を行った。併せて2地域のまちづくり協議会と公民館と連携し、地域における日本語教育のニーズ調査を進めると共に、関係講座・事業に携わり、教室の開催への土台を作った。</p>		
	所属(担当課)	職名	担当者名
佐賀市国際課	課長	馬郡 裕子	

佐賀市国際課	副課長	井手野 修万
佐賀市国際課	主査	江崎 勇史
佐賀市国際課	主事（コーディネーター）	宮副 千代子
佐賀市国際交流協会	職員（コーディネーター）	馬場 三佳
佐賀県日本語学習支援 カスタネット	サポーターズ担当（コーディネーター）	貞松 明子
佐賀県国際課	日本語コーディネーター	市丸 佳代子

## (2)日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



## 4. 具体的な取組内容

### (1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和4年 4月	コーディネーターの確保	・連絡調整、事前学習	
令和4年 5月	コーディネーターの確保	・連絡調整、事前学習	
令和4年 6月	・20日 第1回コーディネーター会議 キックオフ会議事前打合せ	・実施団体と文化庁採択内容確認 ・県事業との連携について打合せ	
令和4年 7月	・1日 第1回アドバイザー会議（キックオフ会議） ・14日 第2回コーディネーター会議 キックオフ会議を受けての年間計画の確認 公民館・まちづくり協議会への説明・協力依頼 在住外国人市民のニーズ調査準備	事業計画内容の策定・検討 ニーズ調査アンケート（案）作成 関係者への事業周知・協力依頼	・遠隔1回 (松永・山田・御館) キックオフ会議・顔合わせ
令和4年 8月	・9日 第2回アドバイザー会議（対面） 現地視察・意見交換会（久保泉・春日） ・20日 久保泉①「やさしい日本語」講座開催の支援 久保泉まちづくり協議会/久保泉公民館 ・31日 第3回アドバイザー会議（オンライン） ニーズ調査 調査票作成開始	佐賀県との連携調整 コーディネーター手配 対象事業所リスト作成 ニーズ調査票作成	★来訪1回 (松永・山田・御館) 内容 自治会との意見交換会 ・遠隔1回（松永・御館） 交換会での意見と事業計画書の確認、調査書書式の確認

令和4年 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上旬 ニーズ調査対象事業所リストの作成</li> <li>・13日 第3回コーディネーター会議（対面）</li> <li>・中旬 事業所へ架電・調査票配布</li> <li>・26日 春日受入事業所①ヒアリング</li> </ul>	佐賀県日本語教育コーディネーター研修受講者の確保 ニーズ調査票の配布準備	
令和4年 10月	（ニーズ調査 回収、開取り） <ul style="list-style-type: none"> <li>・11日 久保泉受入事業所①ヒアリング</li> <li>・13日 実施団体情報交換会（オンライン）</li> <li>・17日 久保泉受入事業所②ヒアリング</li> <li>・18日 第4回 佐賀市在住外国人懇話会</li> <li>・21日 春日受入事業所②ヒアリング</li> <li>・26日 久保泉受入事業所③ヒアリング</li> <li>・28日 佐賀県国際課との相互事業内容打合せ①</li> </ul>		
令和4年 11月	（ニーズ調査 回収、開取り） <ul style="list-style-type: none"> <li>・4日 第4回アドバイザー会議（オンライン）</li> <li>・9日 春日受入事業所③ヒアリング</li> <li>・10日 春日受入事業所④ヒアリング</li> <li>・15日 第4回コーディネーター会議（対面）</li> <li>・18日 伊万里市 ボランティア養成講座 傍聴</li> <li>・29日 久保泉受入事業所④ヒアリング</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔1回（松永・山田）</li> </ul> ニーズ調査の進捗確認、 まとめ方への提言、改善指導
令和4年 12月	（ニーズ調査 集計・まとめ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・5日 県コーディネーター研修の受講者との面談</li> <li>・12日 久保泉② やさしい日本語講座（共催） 対象：地元ボランティア団体</li> <li>・14日 市内日本語教育意見交換会 市内日本語教室の課題の開き取り</li> <li>・20日 伊万里市日本語教室交流会（オンライン）</li> <li>・23日 佐賀県国際課との相互事業内容打合せ②</li> <li>・28日 佐賀ランゲージセンター訪問</li> </ul>		
令和5年 1月	（地域への調査結果の報告会の検討、次年度申請準備） <ul style="list-style-type: none"> <li>・17日 第5回コーディネーター会議（対面）</li> <li>・18日 第5回アドバイザー会議（オンライン）</li> <li>・21日 春日①ワールド音楽ツアー@春日公民館</li> <li>・26日 日本語教室開設に向けた研究協議会参加（オンライン）</li> <li>・29日 吉野ヶ里町 交流会 見学</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔1回（松永・山田・御館）</li> </ul> 調査結果を受けた今後の計画の 進め方を指導
令和5年 2月	（ニーズに基づく日本語教室の必要性の確認、開設準備） <ul style="list-style-type: none"> <li>・13日 第6回アドバイザー会議（対面）</li> <li>・下旬 2地区での地域住民と在住外国人との交流会の計画</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>★来訪1回（松永・山田・御館）</li> </ul> 地域住民へ調査結果説明・意見交換の総括
令和5年 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5日 久保泉③ひなまつり交流会</li> <li>・報告者作成（事務局）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会事業企画、広報、連絡調整</li> <li>・事業評価、まとめ</li> </ul>	

## (2)立ち上げた日本語教室の詳細（実施なし）

## (3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
国際理解（交流）のための事前研修会 （やさしい日本語講座） （久保泉校区）	令和4年8月20日、 12月12日	対象：まちづくり協議会（8月）・女性部／ボランティア団体（12月） 内容：（60分程度）テーマ 「やさしい日本語について」 目的：外国人との交流の際に使われる「やさしい日本語」を説明し、実際に近隣で生活する外国人と会話してもらうことで、顔の見える関係につなげた。
日本語教室意見交換会	令和4年12月14日	参加者：地域ボランティア日本語教室、佐賀県国際課、佐賀県国際交流協会、佐賀市国際交流協会、佐賀県日本語学習支援「カスタネット」、佐賀市国際課各担当者 内容：佐賀市内の地域日本語教育に関する団体と意見交換を行い、日本語教室や学習者の現状を把握すると共に、それぞれの活動について課題を共有した。
ワールド音楽ツアーin 春日公民館	令和5年1月21日	内容：佐賀市国際交流協会事業のアウトリーチ型として、地域住民と在住外国人を集め、外国人の出身国（フィリピン、インドネシア、中国等）の曲をピアノ・バイオリン・フルートの演奏に合わせて参加の外国人住民を紹介し、地域の多文化化の認識、日本語教室開設の必要性を理解してもらう機会とした。
外国人に日本語を教えてくださいませんか？ （地域日本語学習支援者向け講座）	令和5年2月19日、 3月5日	対象：参加希望者（一般市民 32名） 内容：12月14日の意見交換を受け、課題にあげられた「人材不足」の解消につなげるため、佐賀県国際課、佐賀県国際交流協会、佐賀市国際交流協会と開催した。 本市の在住外国人の現状を伝え、多文化共生やボランティアの知識を深め、参加者が実際活動している教室主宰者から話を聞く場を設け、教室見学を経て活動する場への流れを作った。

【主な活動】



やさしい日本語講座  
令和4年12月12日



ワールド音楽ツアー  
in 春日公民館  
令和5年1月21日



外国人に日本語を  
教えてみませんか？  
令和5年2月19日

5. 今年度事業全体について

<p>進捗状況</p>	<p>当初の計画に基づき、 ○地域関係者（自治会、まちづくり協議会、事業所等）へ日本語教室の意義と必要性の周知・理解の促進 ○外国人受入事業所を通じた日本語教室に関するニーズ調査の実施と結果のまとめ ○ニーズ調査結果を地域の関係者へ説明とフィードバックを実施し、日本語教室開設についての土台作りを行った。 但し、事業所へのヒアリングや関係者への説明等に想定よりも時間がかかり、当初計画で予定していた教室活動の試行や支援者の養成講座の実施までには至らなかった。</p>
<p>事業推進にあたり問題点と対応策</p>	<p>○地域の在住外国人に関して、自治会等関係団体と事業所との間の意見・認識について感じた温度差 → 双方が目的を一つにし、協力できるテーマを活動に取り入れた日本語教室を目指す。 ○地域住民がもつ在住外国人への先入観 → 在住外国人も同じ地域の住民と認める交流活動の実施 ○市内既存の日本語教室や、久保泉・春日校区以外の日本語教室を開設したい地域への配慮と対応 → スタートアップ事業が、市内全体の日本語学習支援につながるような工夫と連携の推進</p>
<p>成果</p>	<p>○ニーズ調査を受入事業所を通じて行い、事業所や外国人の日本語学習の現状が具体的に把握できた。 ○事業の趣旨を理解し、地域と連携して在住外国人の日本語学習支援を希望している事業所の存在を把握できた。 ○受入事業所の担当者と繋がりができ、外国人へのイベント等の案内が可能になった。 ○県コーディネーター研修参加者を久保泉・春日の教室開設のコーディネーターとして確保予定ができた。</p>
<p>地域の関係者との連携による効果</p>	<p>○教室の必要性を説明した結果、関係団体や公民館、まちづくり協議会の予定行事と連携した文化理解・やさしい日本語講座が実施できた。今後頻度を上げ、学習環境を整え、継続した日本語教室活動への流れが期待できる。</p>
<p>コーディネーターの主な活動</p>	<p>①事業計画の作成、調整 （コーディネーター会議 2時間×3回、アドバイザー会議 オンライン2時間×4回、対面6時間×2回） ②ニーズ調査（アンケートの作成、配布、開取り・回収、集計、結果分析） ③日本語教室開設・運営のための調整（コーディネーター会議）（2時間×2回） ④佐賀県国際課 コーディネーター研修事業との調整・人材確保（27時間） ⑤地域事業との共催活動：「やさしい日本語」「多文化共生への理解」の観点からの計画・実施（11時間）</p>
<p>アドバイザーの主な助言</p>	<p>○ニーズ調査にかかるアンケート内容確認・結果の評価 ○地域や事業所との連携を深める考え方 ・教室設置を希望する事業所・関係者とまずは試行してみること。 ・日本語教室開設は外国人の日本語力を向上することも目的ではあるが、地域住民に理解者を増やすという目的もある。 ・居住に対し、よく思わない方にも理解を進めるのは、なかなか難しいが、地域づくりや今後の地域の発展のためには、そういう人たちも地域を支えている現実を少しずつ理解していただくような取組を一つ一つ重ねていけたらよい。 ○日本語教室開設に向けた計画実施の管理方法</p>

	<p>教室開設はバックワードデザインで。ゴールから逆算、すべきことを細分化し優先するものから。ぶれないゴールを持つ。本事業終了時にどのようなコミュニティとなっていたいかを考えることが重要。</p> <p>○他地域の先進的な取り組みの紹介</p>
今後の課題	<p>①学習支援者の育成：教室に継続性を持たせるため、可能な限り久保泉・春日、または近隣からの支援者の確保</p> <p>②コーディネーターの活動支援：本年度佐賀県で研修を受けたコーディネーターが自主的に活動できる環境づくり</p> <p>③教室計画づくり：参加者全員が各自目的をもって学びあい交流する場としての日本語教室整備</p>
今後の予定	<p>①日本語学習支援者養成講座の実施</p> <p>②公民館長をはじめ地域の関係者へコーディネーターを紹介し、活動の環境を整える。 定期的にコーディネーター会議を実施する。</p> <p>③地域行事を含めた年間教室活動計画の作成と実施（月1－2回程度から徐々に回数を増やす）</p>

本件担当：佐賀市総務部国際課 多文化共生係